

なんぶたこえ 南部風絵について

江戸時代の幕藩体制が確立されると、徳川幕府により諸藩勢力の分散政策の一つとして参勤交代制が制定されます。しかし、期せずしてこの制度により江戸と地方都市との間で文化と産物の交流が促進され、江戸の流行はいち早く地方にも伝わるという結果をもたらしました。

このような文物の交流が行われる中で、江戸の風ブームが地方にも広がり、やがて地方色が豊かな風が各地で誕生します。その中の一つとして、「南部風」も盛岡藩一帯に広まり、その流れは当時の盛岡～遠野～釜石を結ぶ交通の要所にあり、宿場町として栄えていた大迫にも及んでいたと考えられます。

「南部風」の特徴は、津軽風絵に見られる「対の絵」ではなく、ほとんどが「一人絵」であること。江戸の影響を受けた作風で、津軽風のような荒々しさや力みがなく、丸みを帯びたおとなしい感じのもので、人物の肌の色はピンク色を主体としています。

大迫で毎年盆に行われる「あんどんまつり」は、江戸時代に始まり県下では類をみない奇祭として知られていますが、このあんどんに描かれる絵柄は、武者絵などが多く、「南部風絵」や絵馬などにそのルーツがあるのではないかと考えられています。